

いずみさの昔と今 第345回

「出前授業 — 昔のくらし —」

歴史館いずみさのでは、毎年市内の小学校で出前授業を行っています。この授業は3年生を対象に「昔のくらしについて」の理解を深めることを目的にしており、「食」「衣・住」「農業」「ぞうり・わらじの体験」の4つのテーマにわけ、実物に触れてもらうことによって昔のくらしの一部を体感してもらっています。

今回はこの出前授業で使用している道具のうち、「衣・住」にかかわるアイロンについて取り上げます。授業では昭和の電気アイロン、明治・大正時代の炭火式アイロン、平安時代から使用されていた火熨斗（ひのし）と称される柄杓（ひしゃく）状アイロンの3種類を活用しています。

で、電気が一般に普及していない時代は、想像のつかない世界なのかもしれません。

もうひとつのアイロン、火熨斗についてはその用途がわかる児童はいませんでした。全体の見た目から、柄杓やフライパンを想像する意見が多く聞かれました。火熨斗は平安時代の文献にもその記載があり、古代から使用されていたことがわかります。片手鍋のような銅製容器に木炭を入れ、熱と容器の重みで布などのしわを伸ばしていました。明治時代になって文明開化の動きとともに広く普及した炭火式アイロンが登場しても、この火熨斗は和服のしわ伸ばしのため昭和まで使用されたと言われています。なお、火熨斗は今から約1,500年前の古墳時代の古墳の副葬品の中にその存在が確認されますが、この時代に実用品として使用されていたかは疑問です。

ここではアイロンを取り上げましたが、その他の道具も見てみると、煮炊きなどの料理を行うかまどはガスコンロやIHコンロ、暖房具である火鉢やあんかはエアコンや電気コタツに、黒電話は携帯電話へと変化し、農業でも大部分で人力から機械が進むなど、道具の飛躍的な進歩とともに、主な熱源も「火力」から「電力」や「ガス」へ

と変化しています。こうした昔の道具に触れる体験を通して児童たちは、現代のくらしに電気などのエネルギーがいかに重要なものであるかを理解してくれました。

歴史館では多くの昔の道具を收藏・保管しています。このような道具を通して、忘れられつつある「昔のくらし」を現在につなげる歴史の生き証人として残り、活用していきたいと考えています。



▶昔のアイロン
電気式（奥左）、炭火式（奥右）、火熨斗（手前）

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

③泉佐野駅上側（2）



▲昭和42年12月の泉佐野駅前ロータリー付近の写真。よく見ると花輪が飾られているので、商店街がオープンした際の写真と思われる。（左奥にある建物は、前回紹介した市民会館）



◀昭和44年6月の写真。くす玉や「祝」と書かれたアドバルーンが見えるので、デパートがオープンした際の写真と思われる。

▼最近の泉佐野駅前ロータリー。噴水やデパートはもう無く、デパートの跡地は駐車場になっています。また新たにセンタービルができています。



泉佐野市の懐かしい写真是「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中!